

議会だより



「絶品アスパラ」にほほえむ 合海の伊藤ご夫妻

もくじ

6月定例会	2~3P
一般質問	4~10P
中央要望	11P
生産者の声	12P

第 **100** 号



長南 正一 議員

大型養豚場進出の是非を問う

村長 3つの前提条件を踏まえ 慎重に対応する

問 今小屋地区に大型養豚場進出の計画が「(有)ピックファーム室岡」より発表された。

その全体像と具体的な内容・整備計画については、母豚1千頭・常時飼育頭数1万頭・年間出荷頭数2万7千頭・飼育舎をはじめ16棟に及ぶ施設設備、さらに周辺用地を活用した農園や花壇の整備等、総事業費20億25億とも言われる大型プロジェクトが計画されている。

この計画の中には、観光農業としての一面も有し飼料米の使用、そして堆肥の還元・雇用の確保・県道戸沢大蔵線の整備促進の加速等、地域活性化のメリットは非常に大きいものがある

と期待される。

しかし、直線距離で3kmにある肘折温泉郷や近隣集落におよぼす臭気・環境・衛生問題さらには養豚場までの除雪対策等懸念される部分も多い。

また、この事業の推進には村民の理解が最重要不可欠であり、今後恒久的に安定し、村民から安心して受け入れられるよう事業者に対する衛生環境面をはじめ、多方面についての条件を設定し、性急にならずじっくりと検討を重ね、将来的に村にとって本当に望まれる事業展開とすべきである。

村民の意見を的確に判断し、将来展望にいかに関わり付けようとしているのか。

答 この計画は、雇用の場の創出・村税の確保・農業・観光の振興・県道戸沢大蔵線の整備促進など、本村の産業振興及び地域活性化の起爆剤につながるものと期待している。

しかし、周辺の肘折地区などから、臭気や汚水などの環境・衛生面での対策、アクセス道路となる村道柳沢今小屋線の除雪費等の問題が懸念されている。

村は受け入れる前提条件として、

一つは臭いや汚水などの環境・衛生対策がしっかりなされること。二つは豚舎施設までのアクセス道路(村道)の除雪費用を村だけでなく、事業主等の4者が公平に負担すること。三つは、村民の理解を得て進めることを挙げている。

現在、村では6月末までに事業の受け入れの判断を求められているが、3つの条件をクリアすることは困難と考えている。

今後、関係機関と協議しご指導をいただき慎重に進めていきたい。



今小屋地区

問2 将来の大蔵村、そして肘折温泉の発展に向けた良好な手段で、時間をかけ対話を深められ、賢明な判断を示すべきと考えるが。

答2 新しい情報等も周知しながら、地元近隣の集落との話し合いを進め、お互いに理解し合うことを大切にし、調査・検討していく。



加藤 忠己 議員

災害時の情報伝達を確実なものに

村長 緊急情報メール配信を進めていく

問1 村ではここ数年、豪雪・集中豪雨による河川の氾濫・県道村道の崩落や土砂の流入と多くの災害に見舞われてきた。災害が発生した場合、発生場所や規模、状況等を把握し、いち早く的確な情報を村民に知らせる必要があると考えている。

現在、非常災害時における伝達手段の確保を目的として、防災無線システムが構築されているが、この防災無線は村内の各地区集落においては有効な伝達手段ではある。

しかし、村内にあっても拡声器音の届かない場所や、通勤・通学・買い物等で村外を離れた場所に居る方々にも情報を迅速に伝達し、いかに周知徹底を図るかが大きな課題としてある。

エリアメール



村民生活に直結する災害(防災)情報や、住民サービスの観点から必要と判断した情報の伝達を迅速かつ確実なものとするために、携帯等の緊急時一斉メール配信システムを構築する必要がある、導入を検討すべきと考えるが。

答1 昨年7月18日の災害では、道路の土砂災害等により電話と電気の送電が切断され、孤立した地域と情報収集が困難となった。

また、村外に出かけられている方や保育所および小中学校の児童生徒には、帰宅困難者が発生し、災害の情報だけでなくそれらの方々に早急に状況を伝える必要があった。

こうした課題に対応するため、最上地方8市町村が協力し、災害地区での確実な情報網整備を図ったところ。

本年4月からは火災発生の場合は、最上広域消防本部から消防団員全員へのメール配信が可能となり、あわせて、役場からも災害情報の配信を行えるようなシステムとなっている。

今後はこれを活用し、消防団員だけでなく、議員や自主防災組織の役員など関係する方々へ、緊急情報を



一斉に配信できるようメールのアドレスの登録を進めていく。あわせて希望する村民からも登録してもらえよう準備する。

また、今後は携帯電話サービスのエリアメールの利用の取組みを検討し、登録していない観光客等にも的確な情報の伝達が可能となるよう、準備を進めていく。

問2 メール配信が大量の村民に安心活用されるよう周知が必要ではないか。

答2 村民にPRし、活用できるように早急に対応したい。



矢口 智 議員

「清水・合海」まちなかに夢を

村長 地域住民が主体となるべき

問 中心市街地としての清水・合海地区は、国道がバイパスに移る前までは人も車も多く賑やかさがあつた。今、車の往来の少ない旧国道を見るとさみしさが際立っている。明るさが足りない。

この地区は、言うまでもなく、役場・診療所を中心に村の機能が集積しているし、子育て支援住宅の整備で街の様相が変わり、学校や中央公民館を含めて重要度がさらに増していると感じている。

しかし、重要度が増している割には魅力を感じさせるものがない。歴史を感じさせる風情とか伝統とかも含め、感性に訴える魅力が欠けていると感じる。地元住民を中心に将来構想、グランドデザインを創造するべきと思うがどうか。

住民が住みやすい街。商業を中心に魅力ある街。「祭り・イベント」賑わう華やかな街。じっくり語り合い将来の姿を思い描こう。そして、その目標に向かって具体的に進めていこう。

味気ない旧国道を癒しの空間に変えよう。子供が遊びまわれる空間を創造しよう。日曜市で賑わう空間を創造しよう。

考えてみただけで楽しくなってくる。

出来るかどう

うかの話が重要ではない。

夢を語るのが重要だ。これからの新しい街の姿を思い描くことこそ、今まさに必要と思うがどうか。



旧 国 道

答 清水・合海地域の魅力ある街づくりのため、どう進めていくのか。これについては、決して村からの押し付けでなく、まずは、地域のあるべき姿、地域をどうしたいのかを地域に住む皆さんで考えることが重要である。それを進める上で

の村の協力や支援は惜しまずに行っていく。まず、地

域住民が主体となるべきです。

将来に向けた課題等について主体的に話し合い具体的な行動につなげていくことが何より重要と考える。住民の皆さんが存分に話し合いができるきっかけとして、今年度の村政座談会を少子高齢化に対応した集落活性化策、集落のあり方をテーマに開催したいと考えている。

また、来年度に向け、本村でも「地域おこし協力隊」の招へいを考えている。

地域住民が自分たちの暮らす地域の将来像を描き、夢を持って地域づくりを進めることはすばらしいことである。その延長として村全体の活気につながるものと考えている。

村として、まずは話し合いのきっかけづくりを進め、活気あふれる街・賑わいのある街、その実現のため取り組んでいく。

問1 「かや野地区」を通る路線は、大蔵村から新庄への一番の主要道路であり、通勤する際や災害、緊急時の最短距離であると考えられる。道幅を整備し安全に通行できるようにすべきではないか。

また、年々増える交通量を考えると、きちんと整備することは大蔵村の経済・産業・観光のためにも必要ではないか。

答1 「一の台地区」から「かや野地区」までの区間は勾配が急で、道路の拡幅工事により家屋の移転等も予想される。道路整備が難しい区間であるが、平成27年度において概略設計を行い、地理的な条件等を考慮しながら村の中心部と新庄市を結ぶいくつかのルートを選定し、村民の皆様の意向を踏まえ、さらに地権者のご理解が得られれば整備に取り組んで行きたい。

問2 大坪十字路への信号機の設置も重要なことと思うが。

答2 信号機の設置については、村及び関係機関、村民の運動が実り、この度最上地区交通問題研究委員会から最上地域で設置すべき2カ所の内の1カ所として山形県公安委員会へ上申がなされた。今後とも早期設置に向け要望活動を強化していく。



大 坪 交 差 点

今小屋に養豚場 村の対応は

村長 村民の意向を尊重

問 養豚業者進出に、近隣集落の住民がなぜ反対するのか重く受けとめる必要があるのではないか。

悪臭・汚染の問題を考えると、風評被害が発生した場合、村の対応はどうなのか。建設費・除雪費等村の負担はどうなのか、いろいろな問題が考えられるが地区住民に納得する説明をし、今後の対応を考えるべきだと思う。

答 事業の受け入れの前提条件として、村民の理解を得て進めると当初から述べており、村民の意向は最大限に尊重する。

ただ、なんでも反対ということでは地域及び村の今後の発展はないと思う。この養豚事業について、大蔵

村に少しでもプラスの面があれば、負の要素があっても地域が許容される範囲内において共存共栄の形で進めていいのではないかと考えている。

また、事業の受け入れには環境・衛生対策がしっかりと行なわれた施設を整備することで、風評被害は防げるのではないか。

村の負担については、養豚施設の建設費に対して村の補助は考えていないが、アクセス道路である村道柳刈今小屋線の除雪費用については、年間約1200万円かかると試算している。その他、雪崩防止対策工事などの費用が見込まれるが、村だけでなく関係者が公平に負担することで考えている。



鈴木 君徳 議員

合海「かや野地区」の道路整備と大坪十字路の安全確保

村長 村民の意向を踏まえ取り組む



佐藤 勝 議員

国道458号線と村道柳渚豊牧線の 連絡部分の改修

村長 道路新設の可能性について検討

問 現在使用している村道柳渚豊牧線（鳶郷）と、国道458号線の合流地点から150メートル区間は法面が急で、冬季間において雪崩が頻繁に起き、除雪作業や一般車両の通行に大きな危険を伴っている。幸い人身事故にはなっていないが、毎年5台位が雪崩の被害に遭っている、その都度除雪担当者が出勤しなければならぬ。

答 村道柳渚豊牧線は豊牧地区と鳶郷地区の国道458号を結ぶ村道であり、国道458号が雪崩等により通行止めとなった場合の迂回路となるなど、村としても重要な路線として位置づけている。

本路線の起点である国道側は、法面が急で度々雪崩が発生し、村としても危険であることを認識している。

以前あった国道と村道の間の尾根状の山林部分は、山砂採取により平坦な地形となったことから、国道に向かって道路を新設することにより雪崩の心配が回避され、勾配もゆるやかになり、現状より安全に国道に接続できるものと考えている。しかし、当該地は豊牧地区の共有地を含む筆界未定地となっており、共有者の一部が村外への転出や、相続登記が終わっていないなど、村道用地として取得することが非常に困難な土地であり、用地取得が可能かどうかの検討が必要となる。

問 村の中心部で特に裏道や路地の除排雪に関して、住民は山間部の人達以上苦勞をしているように思える。住宅が密集し小型除雪機も有効に活用できなく、手作業や多くの経費をかけて業者に排雪を委託するしかないと聞いている。また、災害時に於ける避難経路は充分に確保できているのか。高齢者の多い現在、これらの事を含んだ施策はあるのか。



答 住宅密集地域における道路の除排雪については、なかなか良策がないのが実情としてある。今後、村内すべての地区において自主防災組織が組織化され、有事の際には、地域住民の共助のもとに行動できるのでないかと考えている。そのため防災用品購入補助や組織運営の手助けをしている。地区内での危険箇所の確認や落雪への注意喚起、除雪時の申し合わせなど自主防災組織を有効活用し、地区の安全確保を図っていただければと思う。



齋藤 義廣 議員

少子化対策の一助に 婚活事業の取り組みを

村長 未婚者への支援に意を配す

問1 大蔵村においては、出産から中学校卒業までの子育て支援についてあの手の手と他市町村に先駆けた支援事業に取り組んでいる。

しかし、子どもを安心して産み育てられる環境の改善は必要不可欠ではあるが、少子高齢化が大蔵村の将来的危機と認識するならば、出会いの場を増やし、結婚・出産につながる手厚い支援策を検討すべきだと考える。

「結婚したいけど出会いがない」と嘆く未婚者（家族）に支援の手を差し伸べる施策に取り組むべきと思う。



答1 結婚を希望する独身男女の出会いの機会を、拡大するための仲人活動を復活させ、お見合い支援を強化したいと考えている。「結婚したいけど出会いの場がない」または「どうしても積極的になれない」そうした方のために、以前は、人生経験の豊富な方が仲人として当たり前のように独身男女の間を取り持っていたのだ。

そんな形を取り入れられないものかと考えている。活動してくれる方に登録してもらい、委員会を作って結婚の支援をしていただくことも必要ではないかと考える。

本村では、これまで子育て支援に重きを置いた施策を展開してきた。今後は、出生数を確実に増やしていくために出会いの場を作ること。安心して子供を生み育てられる環境を整備していくことも重要であると考えている。

さらに、合計特殊出生率も県内でも高い数値で推移しているが、人口減少に少しでも歯止めがかけられるよう、未婚者への支援に意を配していく。



地蔵倉（肘折）

問2 子や孫の世代まで家・地域・村を守るためにも、村が取り組む方向性の具体策は。

答2 出生の原点となる縁結びを成功させるためにも、仲人会（仮称）の立上げを急ぎ効果を発揮させたい。行政としても係わりを持ち支援していく。



八鍬 信一 議員

小水力発電の構想は

村長 発電施設建設に向けた検討を指示

問1 東日本大震災では、大蔵村においてもライフラインで最重要とされる電気・水が止まり、生活に係る全てに影響を及ぼし大変な事態を経験することになった。

あれから3年過ぎ、防災意識も薄れかけ再度検討しなければならない時期がきている。

災害時に有効な手段は何と言っても自然エネルギーの利用である。大蔵村は村内各地に恵まれた水があることから、小水力発電が有力とみられる。

最近また地震が頻発している。村民の防災意識の高揚と非常時の自主防衛に対応することから、避難施設の照明・その他の電源として最低必要とされる規模の小水力発電機の設置と、一般家庭向けにも小水力発電装置の設置補助を、早急に検討すべきと考える。

答1 「3・11」の原発事故以降、太陽光や風力などの自然エネルギー事業が展開されており、今後とも再生可能エネルギー事業が拡大していくものと考えている。

村では国土交通省新庄河川事務所に依頼し、村内の発電可能な砂防施設について調査した結果、特に銅山川に建設した砂防ダムが発電として有望との報告を得ている。その中でも、送電の関係や管理しやすさの点で升玉砂防ダムが発電に最も適しているとの結論を得たところである。



小水力発電装置「ピコピカ」

村としては、すぐに事業化に踏み切る覚悟であったが、肘折地区で発生した道路崩落災害への対応を優先し、災害復旧も一段落したことから、今年度、中規模の発電施設建設に向けた検討を指示した。

また、避難施設に対する発電機等の配備については、昨年度から村内全地区への自主防災組織立ち上げを進めており、その一環として配備費用の助成を実施している。さらに、消防団の備品としても発電機や投光機の設置を進めてきた。

なお、家庭向けの小水力発電装置設置費用に対する助成については、その有効性等を検討しながら、実施に向け考えていく。

問2 現在検討している水力発電の規模は。

答2 升玉に設置を考えた場合、試算されたもので、1370戸分の年間発電量があり建設費で概算3億5千万円とされる。



升玉砂防ダム

中央要望



去る6月19日村長と共に上京し、県選出国会議員3名と国土交通省道路局をそれぞれ訪問し、村の重要事業推進のため、次の要望活動を行ってきました。

特に一般国道47号・地域高規格道路「新庄酒田道路」は、沿線地域の発展や安心・安全な地域づくりにつながるとし、強く要望しました。

面談した国会議員からは、これらの道路網の整備は利便性のほかに災害時のう回路としても大きな役割を持つことから、今後も努力を惜しまないという強い言葉をいただきました。

1. 一般国道458号線の整備促進について
2. 主要地方道戸沢大蔵線の整備促進について
3. 東北中央自動車道建設促進について
4. 一般国道47号・地域高規格道路「新庄酒田道路」の整備促進について
5. 県営ため池等整備事業赤松3期地区整備促進について

「大宮中央青果市場」訪問

J A山形もがみの主要市場である大宮中央青果市場において、岡田専務と遠山氏に園芸野菜等の取扱いについて話を伺ってきました。

大宮中央青果とは、25年度実績で4億3千5百万の取引があり、特にトマトやネギの取扱高は30数社の中でも1番です。現在出荷している野菜関係や、その他品目について意見交換してきました。

下記に一部紹介します。

トマトの生産者が増えているが市場での将来性は？
一般家庭でも年中食べることからもっと欲しいくらいです。

きゅうりの選果施設が昨年より稼働したが品質に問題ないか？
昨年以前はサイズに多少バラつきがあったが、機械選果によって品質が統一され大変良い。

新たに出荷して欲しい品目は？

最近、若い世帯で洋食に合う「エリンギ」。サラダ感覚で食べる「スナックえんどう」や「さやいんげん」「そら豆」が人気であり、品薄状態なのでぜひ生産して欲しい。

◆ 岡田専務より ◆

売れる物づくりは何でもブランド化することだ。商品ラベルにも気を配り消費者の目に止まるものが良い。

「J A山形もがみ」さんとは長年の付き合いで信頼関係がきちり出来ている。

今後もお互い協力しながら、消費者皆さんに安心安全な食材を提供していきたい。



『促成アスパラガス栽培』伊藤英也さん・千年さん夫婦を訪問

Q アスパラガスを始めるきっかけは？

A 親戚でやってるアスパラガスを見て、一年で収穫できることから始めました。

Q 現在の栽培規模は？

A 養成畑30aに「ウエルカム」を4500株ほど栽培しています。

Q 作業工程は？

A 2月にセルトレーに播種↓30日でポットに移植↓5月中旬に養成畑（マルチ畝）に定植↓11月中旬株の堀上げ↓ハウス内の促成ベットに伏せ込み↓25cmで収穫し、S・M・Lに仕分けて出荷します。

Q 今後の経営は？

A 現在の規模で手がいっぱいなので、しばらくはこのままかな。慣れと省力化ができるようになったら規模拡大も考えたいです。

Q アスパラで大変な事、また、やって良かった事は？

A 昨年の秋の堀上げは長雨で株が重く、ハウスに運ぶのもベットに伏せるのも大変でした。それとハウスの温度管理と換気ですね。

A 良いことは、冬期間は暖かいハウスの中で2人で楽しく作業ができることかな。

A 最後に一言お願いします。

A 大蔵支店ではまだ4人しかやってないので、今後仲間を増やして部会活動できるよう頑張りたいです。推進には農協・役場の協力を是非お願いします。

A これからも安全安心なアスパラガスの増産と栽培普及に頑張ってください。

A どうもありがとうございました。



「議会だより」発刊が100号に!!

議会だよりは今回で100号を迎えましたが、記念すべき、創刊号（第1号）は平成元年10月に発刊されています。

この平成元年は、明治22年に町村制が施行され、当時の清水町村・合海町村・赤松村・南山村を合併し、大蔵村が誕生してちょうど100周年を迎えた記念すべき年でもあり、議会だよりが創刊されたがあります。

その内容を見ると・・・

当時の議長は清水の安喰氏、村長は肘折の村井氏。最上広域市町村圏の事業が始まったことや、舟形・大蔵共同斎場の建設や、村営住宅の建設が着工されたことなどが紹介されています。

一般質問も、中央公民館機能の充実を図ることや生活改善に関することと、豪雪を活かした冬季イベントの充実化など、活発な議論が交わられています。

その当時の議員数は16名。表紙の写真は、上空から見た村の中心部。

そして、今回の議会だよりが100号。



コラム

「農協改革に声を」

今農業・農協を取り巻く規制改革が審議されているときJA全中やJA全農任せでなく我々当事者が最も真剣に考えるべきである。

JAグループそれぞれの事業を見ると、全中は経営指導と監査・全農は農産物の販売（経済事業）・農林中金は預貯金と融資（金融事業）・共済連は生命と損害保険（共済事業）・他に都道府県単位の組織と全国に700の地域農協があり、すべて合わせると職員は1万人以上とも言われる。その内容をどのように改革するのか、農業にとって農家にとって負の改革だけは何としても避けなければならない。農協は生産物の販売と売上金の回収・農機具購入や営農資金の融資・生命財産を保障する共済と、我々にはなくてはならないサービスの提供組織である。

とにかく地域農協の声を大にして、我々の生活を守ることが大事。

広報委員長 八 鍬 信 一